

第 I 部 東日本大震災

【令和元年度分】東日本大震災に関する北九州市の支援状況

(令和2年3月31日時点)

《人的な支援》

1. 職員の中長期派遣【危機管理室】 6名

岩手県釜石市へ災害復旧業務に従事する職員の中長期派遣を実施

(平成23年6月2日～継続中)

* 釜石市復興支援本部 (3名)

- ・ 津波復興拠点整備、漁港施設機能強化に係る設計、監督等業務 (土木職)
平成31年4月1日～令和2年3月31日
- ・ 用地取得に係る交渉、登記、補償、私有地の売却・貸付業務 (事務職)
平成31年4月1日～令和2年3月31日
- ・ 応急仮設住宅の特定延長に係る業務 (事務職)
平成31年4月1日～令和2年3月31日

* 釜石市復興住宅整備室 (1名)

- ・ 復興住宅整備事業等に係る業務 (事務職)
平成31年4月1日～令和2年3月31日

* 北九州市・釜石デスク (2名)

支援に係る具体的なアドバイスや本市関係部局との連絡調整などを迅速かつ円滑に行なうことを目的として、平成23年8月1日に開設 (～継続中)

- ・ 北九州市・釜石デスクの運営 (復興支援統括官1名、現地採用の嘱託職員1名)
平成31年4月1日～令和2年3月31日

《その他の支援》

1. 釜石市のバックアップデータの保管【総務局】 (継続中)

釜石市の住民情報データを北九州市でバックアップ保管

東日本大震災被災地への中長期派遣職員報告

	〔派遣分野、活動期間、所属名（補職名）、氏名〕	（頁）
1	<u>釜石市（北九州市・釜石デスクに係る業務）</u>	7
	平成31年4月1日～令和2年3月31日 危機管理室危機管理課復興支援統括官 久保 広行	
2	<u>釜石市（津波復興拠点整備事業、漁港施設機能強化事業に係る設計、 監督等業務）</u>	13
	平成29年4月25日～（継続中） 危機管理室危機管理課主査 明松 誠一郎	
3	<u>釜石市（復興住宅整備事業等に係る業務）</u>	17
	平成29年4月25日～令和2年4月24日 危機管理室危機管理課主任 荒川 恵子	
4	<u>釜石市（用地取得に係る交渉、登記、補償、私有地の売却・貸付業務）</u>	22
	平成28年4月1日～（継続中） 危機管理室危機管理課 中村 幸一	
5	<u>釜石市（応急仮設住宅の特定延長に係る業務）</u>	24
	平成29年4月1日～（継続中） 危機管理室危機管理課 三上 雅弘	

釜石着任から 1 年を振り返って

～釜石市の復興の現状について～

派遣先 北九州市・釜石デスク
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 久保 広行
活動期間 平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

1 釜石市での業務

平成 31 年 3 月末で北九州市役所を定年退職し、4 月 1 日付で北九州市・釜石デスクの復興支援統括官を拝命しました。

主な任務は、釜石市の復興事業を担当する北九州市派遣職員へのサポート、釜石市との連絡調整、北九州市職員や市議会議員等関係者の視察受け入れ、西日本新聞の釜石レポート掲載などです。

平成 30 年度は釜石市の復興事業も順調に進み、用地買収や水産課の事業に携わっていた職員のうち 4 名が 4 月以降に北九州市に戻りました。以後昨年度から 4 名の減員で今年度はスタートし、令和元年度の派遣職員は 6 名です。釜石市での配属先は、復興推進本部内の都市整備推進室に 2 名、生活支援室に 1 名、建設部都市計画課に 1 名、北九州市・釜石デスクに 2 名。皆さん釜石市の職員や他都市からの派遣職員と一体となって復興業務に日々取り組んでいます。

2 整備された社会インフラ・施設

令和元年までに復興計画で建設予定の公共施設、道路整備などの社会インフラが概ね完成しました。まず、道路整備では、釜石道の仙人峠 I C から釜石中央 J C が平成 31 年 3 月に完成しました。いわて花巻空港や新幹線の新花巻駅から釜石市内へのアクセス時間がかなり短縮され、とても便利になりました。令和元年 6 月には三陸リアス線の大槌 I C と釜石中央 I C の開通で沿岸部と内陸部や仙台及び青森方面へのアクセスも一段と良くなり、交通網の整備が大きく進展しました。



(釜石中央 I C 開通式)

震災時の津波災害で大きなダメージを受けていた第三セクターの三陸鉄道（株）も久慈駅～盛駅間の全線が平成 31 年 3 月に開通。通勤・通学客の利用や観光客などで復興を感じる賑わいを見せました。台風 19 号の被害により、一部区間は再び不通となりましたが、令和 2 年 3 月に復旧しました。

令和元年9月のラグビーワールドカップ（RWC）開催に併せて運行したラッピング列車が、国内外からのRWC観戦者や観光客へのおもてなしとしてとても好評で、マスコミなどでも取り上げられ話題となりました。

【鶴住居（うのすまい）地区】

平成31年3月には大震災の津波伝承施設「いのちをつなぐ未来館」、津波犠牲者を追悼する「釜石祈りのパーク」や観光物産館などがオープンし、来場者で大きな賑わいを見せています。

この「いのちをつなぐ未来館」の命名に公募により採用されたのは、本市派遣職員の中村幸一氏の案です。これも今後の本市と釜石市の「絆」を繋ぐ出来事となりました。



（野田市長から表彰を受ける 中村幸一氏）



（いのちをつなぐ未来館1万人目入場）

ラグビーワールドカップの試合会場となった「釜石鶴住居復興スタジアム」で開催された「フィジー対ウルグアイ」戦は、1万5千人以上の観戦者で会場が埋まり、大変盛り上がりました。

また、令和元年12月には市民体育館もオープンし、こけら落としで、プロバスケットボールの「岩手ビッグブルズ対金沢武士団」の試合も開催されました。



（大観衆のRWC「フィジー対ウルグアイ」戦）



（市立体育館 こけら落とし）

【東地区】

東地区では土地のかさ上げや区画整理事業も完了し、釜石市の最後の復興公営住

宅が浜町に完成して、市が建設を計画していた復興住宅は全て終わりました。

この復興公営住宅は、5階建てでエレベーターが完備され、バリアフリー化も取り入れて、高齢の入居者に優しい構造でかつ各階に津波時の避難スペースや集会室も備えており、今後の公営住宅建設のモデルのような建築物となっています。

また、令和元年5月には、鮮魚の中央卸売市場のすぐ隣に「魚河岸テラス」もオープンしました。テラスには、釜石の魚や野菜等の産物を使用した「地産地消型」のレストランが4店舗出店しています。釜石の新しい観光施設としての位置づけもあり、休日のお昼や平日の夜などは予約が取りにくい程人気です。



(魚河岸テラスのオープニング式典)

3 交流事業

【釜石まるごと味覚フェスティバル】

釜石市の食の祭典である「釜石まるごと味覚フェスティバル」が令和元年9月21日、22日に開催されました。会場は市中心部の「青葉通り」で、釜石市水産課が提供する炭火焼サンマ、地元の野菜やお菓子、友好都市の特産品などが出店し、多くの来場者でにぎわいました。また、今回も北九州市から復興支援で継続して出店している「絆焼



うどんプロジェクト」が参加しました。このプロジェクトは東日本大震災の後、小倉北区の「お好み焼き いしん」代表の向井博幸氏が、北九州市立大学の学生と一緒に始めたものです。今回は本プロジェクトのOGで、現在は本市職員でもある大庭亜美氏、山田愛佳氏も駆けつけ、釜石産のイカを使用した「絆焼うどん」（1食100円で販売）を2日間とも完売しました。例年売上金は釜石市へ寄付しており、今年も約16万円を寄付しました（累計寄付金額は約77万円）。

【北九州市農林水産まつり】

令和元年11月16日と17日に小倉南区の総合農事センターで、地産地消の推進を目的に「北九州市農林水産まつり」が開催されました。釜石市は、北九州市からの復興支援に感謝の気持ちを伝えるために、東日本大震災後の平成24年から毎年、このイベントに参加し、釜石サンマを北九州市民に振る舞っています。

今年も釜石市で水揚げされた2,000匹のサンマを北九州市に運び込み、サンマの炭火焼に熟練した釜石市水産課職員らが塩焼きにして、本市職員等も協力し、一緒に良い汗をかきました。

今年のサンマは不漁で、やむをえず冷凍のサンマでしたが、例年同様に形も大きく脂がのっており、美味しいと評判で、過去最高の約300名が列に並びました。スタッフ全員「ワンチーム」で、焼き立て熱々のサンマをスムーズに皆さんに提供することができました。また、同時に「かまいし特産店」も出店し、釜石市の水産加工品やお菓子などの販売もしました。

今回も釜石サンマの振る舞いや特産品の出店を楽しみに多くの北九州市民の方が農林水産まつりの会場へ足を運び、今ではイベントの中核を担っていると言っても過言ではないくらい盛り上がりました。



(北九州市農林水産まつり 2019)

【北九州マラソン2020】

令和2年2月16日に開催された北九州マラソン2020に、今回も釜石市在住の市民ランナーが参加しました。また、マラソンの併催グルメイベントには例年、釜石ホタテの浜焼きブースが出展しており、今回も釜石市の物産協会職員や釜石市の商業観光課職員（佐々木龍樹氏）による観光物産品の販売、ホタテの販売などが行われ、東北の味覚で会場に華を添え2日間とも盛況でした。

また、復興支援本部都市整備推進室の若手職員4名（佐々木秀裕氏、藤本浩氏、植田真治氏、金崎紘輔氏）も今回初めて参加し、翌日は市内視察を行いました。

4 北九州市からの釜石訪問

令和元年は、復興10年の前年ということもあり、本市からは北橋市長をはじめ、多くの方が、視察等で釜石市にお見えになりました。

7月に釜石市の主催で開催された「東日本大震災復旧・復興支援活動フォーラム」では、震災に伴う支援活動を行った各団体への感謝状の贈呈式が行なわれました。本市からは今永副市長が出席し、大阪市、東海市、岐阜県市長会と共に、自治体を代表して、感謝状を受領しました。

11月には、北橋市長及び鈴木副市長が、鶴住居地区や釜石港、浜町災害復興公営住宅など、市内の復興状況を視察するとともに、派遣職員への激励を行いました。

また、本市議会議員による視察もありました。

- 5月 7名（共産党 5名、無所属 2名）
- 8月 12名（公明党 5名、自民の会 7名）
- 10月 7名（公明党 7名）



(北橋市長、鈴木副市長 釜石視察)



(感謝状贈呈式 今永副市長 左から2人目)



(本市職員の視察)



(視察状況)

5 終りに

釜石市では、釜石市の職員とともに復興事業に携わってきた北九州市をはじめ、岩手県や県内外市町村から派遣された多くの職員の努力もあって、ハード整備はほぼ完了しています。今後は人口減少からの脱却、水産業等企業の再生・誘致が課題ではないかと考えます。

令和元年の釜石は「ラグビーワールドカップ」開催もあり、全国をはじめ海外に向けても釜石の復興の様子、元気な姿を情報発信することが出来ました。新日鐵釜石が日本選手権7連覇し、ラグビーの聖地と言われた釜石の地で、また津波で被災した小中学校の跡地に建設した「釜石鵜住居復興スタジアム」での試合は、国内外の多くの人に感動と勇気を与えました。

ラグビーワールドカップ釜石開催の成功。これは市民・企業・行政が「ワンチーム」として成し遂げた事で大きな自信になったと思います。この「総合力」が今後の釜石市の更なる発展につながると信じています。

また政府は、2021年度から5年間の復興支援延長を決定しました。

北九州市も引き続き釜石市への復興支援並びに文化・スポーツ等の相互交流を継続していくことに期待しています。



(鵜住居復興スタジアムで 左から釜石市山崎副市長、本市北橋市長、鈴木副市長)